

## 第4部 調査結果まとめ

# 調査結果まとめ

調査項目	母数	調査結果のポイント	該当頁
家族のケアの経験について	全回答者 (14,237人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族のケアをしているのは 全体の4.4% (626人/14,237人)</li> <li>〈学校種別〉 中学校2年生 4.7% (344人/ 7,309人)</li> <li>全日制高校2年生 3.9% (265人/ 6,805人)</li> <li>定時制高校2年生相当 13.8% ( 17人/ 123人)</li> </ul> <p>※令和2年度全国調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〈学校種別〉 中学校2年生 5.7%</li> <li>全日制高校2年生 4.1%</li> <li>定時制高校2年生相当 8.5%</li> </ul>	P12
ケアの状況について	全回答者のうち 家族のケアをしている方 (626人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアを必要とする家族は、高齢層（祖父母）よりも若年層（きょうだい）が多い</li> <li>ケアを必要とする家族の主な課題では【若い】、ケアの内容では【家事】が最多</li> <li>家族や福祉サービス事業者などと複数人でケアを行っているケースが大半であるが、回答者単独でケアを行っているケースも1割弱あり</li> <li>ケアの頻度は【ほぼ毎日】が約半数を占め、【週に3～5日】を加えると7割に迫る</li> <li>ケアに要する時間（平日1日あたり）は【1時間未満】が約半数を占め、【1～2時間】を加えると4分の3に達する</li> </ul>	P14 P15、P16 P18  P20 P21
ケアの影響について	全回答者のうち 家族のケアをしている方 (626人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の生活への影響を感じているのは約4分の1</li> <li>具体的な影響は、【ストレス】【体のだるさ】【睡眠不足】の順に多い</li> <li>ケアに要する1日あたりの時間が長いほど、影響を感じる傾向が見受けられる</li> </ul> <p>※生活への影響を感じている総数は164人で、家族のケアをしている回答者（626人）に占める割合、アンケートの全回答者（14,237人）に占める割合はそれぞれ26.2%、1.2%</p>	P24 P23 P50

# 調査結果まとめ

調査項目	母数	調査結果のポイント	該当頁
ケアに関する相談について	全回答者のうち家族のケアをしている方 (626人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアに関する悩みの相談経験があるのは1割強に留まるが、より日常的にケアをしている層に絞ると2割強まで上昇</li> <li>・相談相手は【家族】が6割を占め、次いで【友人】【学校の先生】の順に多い</li> </ul>	P25、P72 P26、P73
“ヤングケアラー”の認知度	全回答者 (14,237人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の7割弱が“ヤングケアラー”を【聞いたことがない】と回答するも、令和2年度の全国調査と比べると、認知度にやや上昇がみられる</li> </ul>	P32
“ヤングケアラー”に係る自己認識	全回答者のうち家族のケアをしている方 (626人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が“ヤングケアラー”にあてはまるか【わからない】との回答が過半数を占める一方、【あてはまる】は1割強</li> <li>・ケアに要する時間が長いほど、【あてはまる】との回答が増加する傾向あり</li> </ul> <p>※【あてはまる】と回答した総数は83人で、家族のケアをしている回答者（626人）に占める割合、アンケートの全回答者（14,237人）に占める割合はそれぞれ13.3%、0.6%</p>	P33 P52

その他、全体を通じて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校種別に見ると、定時制高校生のケアの負担が大きい傾向がみられる。</li> <li>・ケアの実態としては、幼いきょうだい（弟・妹）の世話をしているケースが多いと考えられる。</li> <li>・家族のケアをしている層全体と、より日常的にケアをしている層を比較すると、ケアの負担の大きさが回答者本人の生活（健康状態や学業など）に影響を及ぼしている可能性がうかがえる。</li> <li>・回答者における「ケア」の認識には個人差が認められ、“ヤングケアラー”の定義の確立されていない影響がうかがえる。</li> <li>・ケアの影響や、“ヤングケアラー”に係る自己認識等についての回答を踏まえると、全回答者の1%程度は、身体的・精神的負担を伴うケアを日常的に担っている可能性があると考えられる。</li> </ul>
------------	---

